

東京都港区 MCS地域包括会計事務所 第6回 協議会 事例から見た遺言作成における問題点と留意点

盛夏の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。7月17日（木）東京都港区の丸山先生が麻布区民センターにて第6回となる協議会を開催しました。今回のテーマは地域包括ケアシステムの柱となるべく、住居問題と遺言をテーマに開催しました。冒頭、丸山先生より社会保険旬報の資料「住居とケアの将来と制度構想 第4回 地域居住と生活支援制度の方向」という資料を活用し、「住宅」をピックアップし、単に住宅の機能だけでなく、高齢者の暮らしやすい居住の確保の重要性（住まい方）や生活支援の概念、地域善隣事業や居住支援給付金などの紹介をおこないました。地域包括ケアシステムを目指すうえでの一つのモデルケースとしての考え方を説明しました。

また、港区で発行している広報の紹介も行いました。今回紹介したのは、「高齢者サービス特集号」ということで、高齢者が利用できるサービスばかりを掲載したものになります。港区だけでもかなりの高齢者に対する支援事業があることを紹介し、自分たちの協議会のあり方などを参加者とともにディスカッションを行いました。

後半には弁護士の天海義彦先生と村山輝紀先生より「事例から見た遺言作成における問題点と留意点」というテーマで遺言書を作成するうえでの注意点や遺言で出来る事、出来ない事の紹介、実際に起こったトラブルなどを最高裁などの判例も活用しながら解説を行いました。また、作成する際のメリット、デメリットなども説明し事前相談をすることやしっかりした知識を持つことの重要性も説明しました。

最後に丸山先生から港区での活動方針や港区以外でも活動する考えもあることが発表されました。こうして6回目の協議会は終了しました。



尚、今回の様子は(株)エヌピー通信社様に取材に来ていただきました（税理士新聞に掲載予定です）